



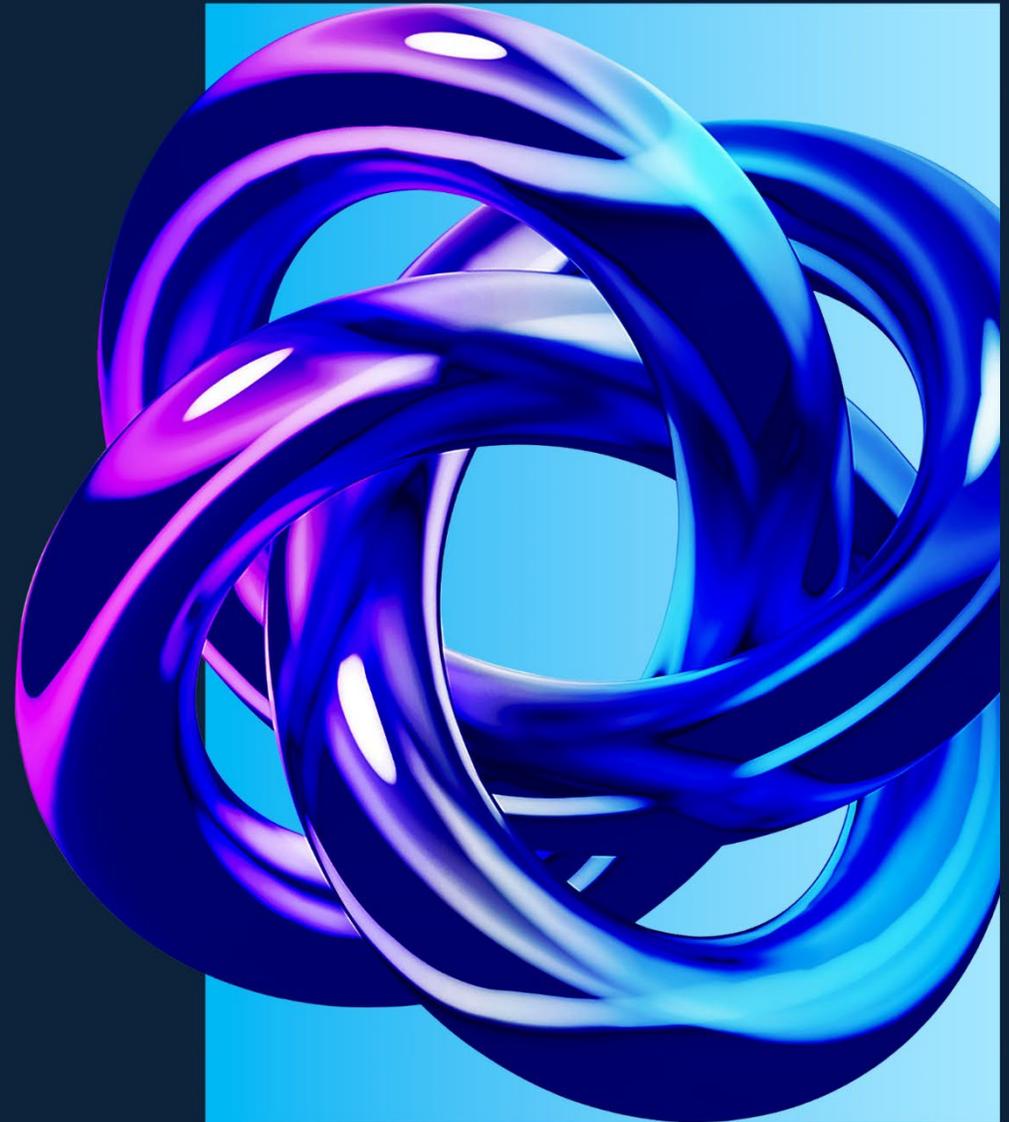
Private Enterprise

Venture Pulse

Q1 2024

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

2024年6月28日



要旨

グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、759億ドル（取引数：7,520件）と安定的に推移
- 全案件に占めるダウンラウンドの割合が増加
- ドライパウダー（投資可能な手元資金）がバリュエーションの向上に貢献
- B2Bとヘルスケア分野は引き続き堅調
- 世界の上位取引10件のうち5件は、中国企業に対し実施



米国

- ベンチャーキャピタルによる投資は、366億ドル（取引数：2,882件）と堅調に推移
- レイターステージの案件ではバリュエーションが回復
- 不況に強いとされる分野が引き続き投資を呼び込む
- イグジットの長期低迷が続く
- ベンチャーキャピタルによる資金調達活動控えが続く

南北アメリカ

- ベンチャーキャピタル支援企業による投資は、382億ドル（取引数：3,205件）に
- ダウンラウンドとフラットラウンドが広まる
- グロース（ミドル）ステージでのバリュエーションが回復
- カナダではメガディールの減少に伴い取引額も大幅に減少
- AI、クリーンテック、バイオテクノロジー分野への投資は堅調
- 南北アメリカにおける上位10件のうち、7件が米国カリフォルニア州で行われる



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は、189億ドル（取引数：2,305件）に
- 2024年のIPOを含むイグジット活動はスロースタートに
- インドへのベンチャーキャピタルによる投資は、好調な滑り出し
- アーリーステージの活動は引き続き底堅い
- 上位取引10件のうち8件は、中国企業に対し実施

欧州

- ベンチャーキャピタルによる投資は、179億ドル（取引数：1,798件）に
- 取引規模の中央値はすべてのレベルで上昇
- 資金調達は引き続き低迷し、わずか50億ドルにとどまる
- 英国の2024年はスロースタートに
- ダウンラウンドの割合が減少
- 上位取引10件は、7カ国で実施

グローバルー2024年第1四半期（1/3）

地政学的緊張に対する継続的な懸念に加え、イグジットの不足、レイターステージ案件への顕著な投資の後退により、2024年第1四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、7,520件で取引総額は759億ドルに減少しました。

南北アメリカでのベンチャーキャピタルによる投資が、アジアや欧州を大幅に上回る

2024年第1四半期、グローバルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、南北アメリカ地域が取引数3,205件、取引総額382億ドルで最大のシェアとなりました。主に米国における案件（取引数：2,882件、取引総額：366億ドル）が牽引したもので、Anthropicによる40億ドルのほか、電池材料企業のAscend Elementsによる7億400万ドル、Figure AIによる6億7,500万ドル、喘息治療に特化したバイオテックのAreteia Therapeuticsによる4億2,500万ドル、Mirador Therapeuticsによる4億ドルなどが含まれます。

当四半期、アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、中国の電気自動車（EV）のIM Motorsによる11億ドル、人工知能（AI）開発企業YueZhiAnMianによる10億ドル、Yuanxin Satelliteによる9億4,000万ドルが牽引し、取引数305件、取引総額189億ドルとなり、南北アメリカに次ぐ市場になりました。欧州では、ベンチャーキャピタルによる投資はわずかに増加し、取引件数は1,798件、取引総額が179億ドルに達しました。欧州での大型案件としては、スウェーデンを拠点とするグリーンインフラ企業H2 Green Steelによる52億ドルと、英国を拠点とするネット銀行のMonzoによる4億3,100万ドルが含まれ、フランスのMistral AIによる4億1,500万ドル、オランダを拠点とする食品eコマース企業Picnicによる3億8,900万ドル、フランスを拠点とするEV企業Electraによる3億3,400万ドルが続きました。

AIは引き続きベンチャーキャピタルによる投資の大きな原動力

2024年第1四半期もAIを活用したソリューションへの投資家からの高い関心は続き、米国のAnthropicによる40億ドルの資金調達を筆頭に、中国のYueZhiAnMianとMiniMax AI、米国のFigure AIとLambda、フランスのMistral AIなど、当四半期最大の取引のいくつかはこの分野でした。

生成AIの分野は、大規模な言語モデル駆動型ソリューションと、生成AIをビジネスに組み込むことで成果と効率化の実現を目指すソリューションの両面で、ベンチャーキャピタルの高い関心が続きました。当四半期、Microsoftはフランスを拠点とするMistral AIと新たなパートナーシップを締結したほか、AI企業Inflection AIの共同創業者の1人が加わるなど、AIの分野で多くの動きが見られました。

コーポレートベンチャーキャピタルによる投資が5年ぶりの低水準に落ち込む

コーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、グローバル全体で2023年第4四半期の408億ドルから、2024年第1四半期は373億ドルに減少し、2019年第3四半期以来の低水準になりました。そうしたなか、南北アメリカは、前四半期比で187億ドルから201億ドルと唯一増加しました。欧州におけるコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は66億ドルと堅調を維持した一方、アジアでは前四半期比で137億ドルから104億ドルに減少しました。コーポレートベンチャーキャピタルによる投資の減少は、多くの企業が中核事業の強化と業務効率化に注力せざるを得なくなった厳しい経済環境など、複数の要因を反映しています。また、ラテンアメリカなど一部の地域では、企業が社内でイノベーションを推進することに重点を置くようになっていきます。

グローバルー2024年第1四半期 (2/3)

2024年第2四半期に注目すべきトレンド

2024年第2四半期に向けて、世界のIPO市場は注視すべき主要分野の1つです。2024年第1四半期に数社のIPOが成功したことを受け、他のスタートアップ企業にもIPOの準備を進める兆しが見え始めれば、ベンチャーキャピタルはリミテッド・パートナーシップ（LP）からの圧力を受ける可能性があります。また、追加資金を調達できなかった企業が財務的に困窮した企業・事業を対象とするディストレストM&Aや知的財産の取得、企業買収のターゲットとなるため、小規模なM&Aが世界の多くの地域で活発化する可能性があります。

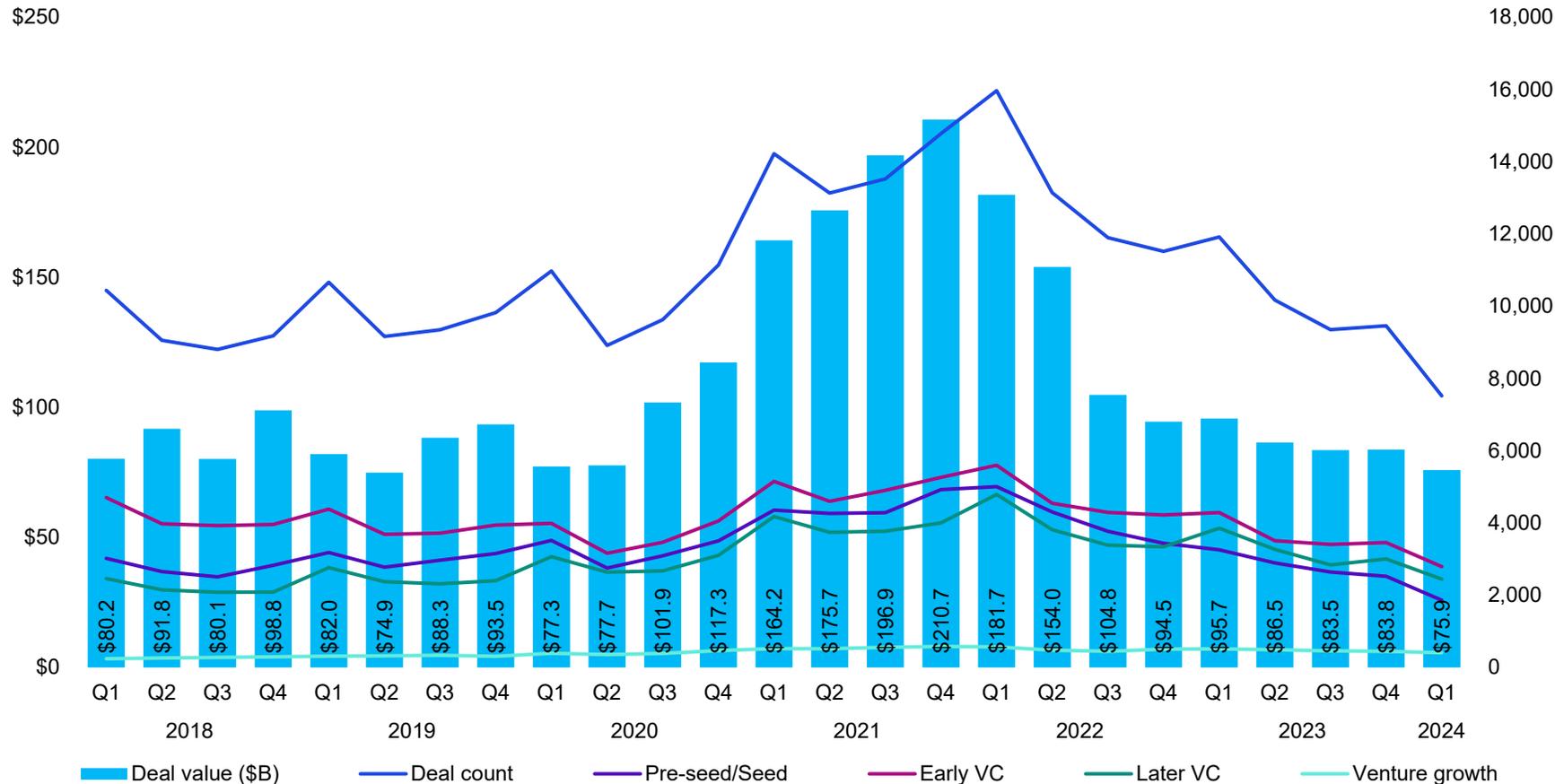
AIは、2024年第2四半期も引き続き世界のベンチャーキャピタルに魅力的な分野である一方で、投資対象はより狭い分野に絞られ始めると考えられ、金融サービスや法律、不動産関連の業務効率化を実現するソリューションなど、業界に特化したAIソリューションは、ベンチャーキャピタルによる投資の主要分野になる可能性が高いと考えられます。クリーンテック分野も、特に欧州における規制要件の高まりと、ESG対応への取組みを強化する国や地域の増加などから、当面は魅力的な投資分野であり続けることが予想されます。

米国と欧州で進む独占禁止法の規制の動きは、今後数四半期にわたって注視する必要があります。

グローバル—2024年第1四半期 (3/3)

Global venture financing

2018–Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.



IPO市場が注目されています。2024年第2四半期にいくつかのIPOが成功し、それに続く企業が現れ、市場に還元される価値と富が生まれることを願っています。IPOに成功した企業やIPOを示唆する企業がさらに出てくれば、LPからの投資への圧力が高まり、ベンチャーキャピタルの財布の紐が緩み始めるでしょう。



Conor Moore
Global Head, KPMG Private Enterprise,
KPMGインターナショナル
Partner, KPMG米国

米国 – 2024年第1四半期 (1/2)

2024年第1四半期の米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、長期にわたるイグジット機会の欠如からベンチャーキャピタルが大型案件に消極的であったことから、2023年第4四半期の401億ドルから366億ドルに減少し、取引件数についても同期間に3,457件から2,882件に減少しました。AIとクリーンテックの分野が当四半期最大の取引額を占め、AIのAnthropicの40億ドルのほか、電池会社のAscend Elementsが7億400万ドル、Figure AIが6億7,500万ドルを調達しました。

IPO市場は依然として停滞し、取引活動の鈍化がアーリーステージにも波及

米国のIPO市場は2024年第1四半期もほぼ停滞したままで、取引活動の継続的な鈍化につながりました。なかでも、レイターステージ案件が最も大きな影響を受けましたが、当四半期は、シリーズBやそれ以前のアーリーステージ案件でも減速がより顕著になり始めました。

2024年第1四半期、米国におけるイグジットの動きは低調なままでしたが、ソーシャルメディア企業のRedditは最も注目に値する例外でした。同社は3月のニューヨーク証券取引所への上場に際し7億4,800万ドルを調達し、初日の取引終了時点で株価は48%上昇しました。RedditによるIPOの成功は、IPO市場の本格的な再開を示すものではありませんが、米国でRedditと同等の成熟度レベルにある他の企業が続く可能性があります。複数のバイオテック企業も、2024年第1四半期のIPO市場である程度の成功を収めました。取引規模ははるかに小規模にとどまりました。

AI分野は引き続き注目分野に

Anthropicによる40億ドルの資金調達に象徴されるように、米国のベンチャーキャピタルの間では2024年第1四半期もAIへの高い関心が続きました。多くのベンチャーキャピタルがこの分野への参入を望み、たとえ小さな割合であってもAI企業への投資を行う意欲を示しました。このような投資活動は、大手企業の牽引力をさらに増し、他の企業が勢いを失うにつれて、短期的には鈍化する可能性が高いとみられます。AIへの関心は、業界に特化したソリューションやツールを含む独自の価値を持つ企業や、生産性向上や人員削減の観点からツールの価値を証明できる企業へとシフトし始めると考えられます。

規制問題が表面化するなか、M&Aの動きは依然として低調

2024年第1四半期のM&Aは、金利の上昇により企業買収コストが上昇するなど、さまざまな要因によって停滞しました。当四半期、米国連邦通信委員会（FCC）が複数の大型M&A案件の申請を却下するなど、規制環境も当四半期のM&A活動を抑制しました。今回のFCCによる申請の却下により、今後どの案件が承認されるかが不確実なため、大型案件に影響が出る可能性があります。

米国は引き続き国内での半導体製造能力の増強に注力

2024年第1四半期、米国は2022年に成立したCHIPSプラス法に基づき、米国内での半導体製造を奨励するなど、国内における強固な環境を構築するための取組みを継続しました。米国政府は当四半期、Intelに対し米国内の4つの州におけるチップ製造施設および研究センターを支援する目的で85億ドルの支援を発表しました。米国政府による支援は、米国内における長期的なイノベーションを促進するのに役立つと期待されています。

2024年第2四半期に注目すべきトレンド

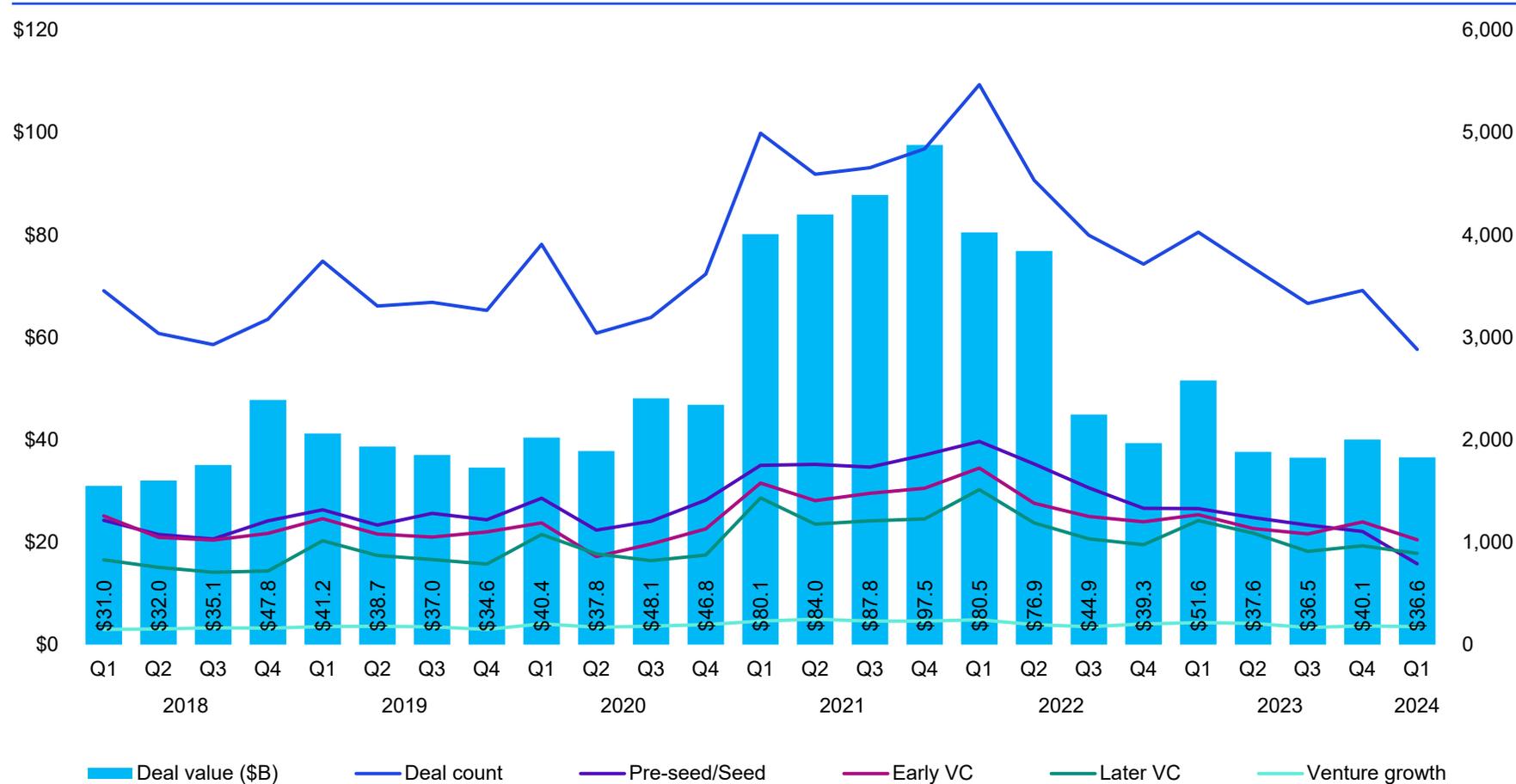
2024年第2四半期は全案件に占めるダウンラウンドの割合は引き続き上昇すると予想されますが、資金調達ができずに資金不足に陥り廃業する企業が増加する可能性があります。また、IPOへの明確な道筋が描けず、資金調達できないスタートアップが売却を検討することから、M&A市場が2024年第2四半期に活発化すると考えられます。

ここ数四半期はAIがベンチャーキャピタルの注目を集めていましたが、量子コンピューティング・ソリューションへの関心も時間の経過とともに再燃することが予想されます。ソフトウェア分野も投資家にとって魅力的であり続けると予想され、特に継続的に収益が得られるビジネスモデルを持つ企業が注目されると考えられます。

米国 – 2024年第1四半期 (2/2)

Venture financing in the US

2018–Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.



大規模言語モデルなど、真の生成AIソリューションを持つ企業は、今後最も資金が集まるスタートアップです。しかし、AIへの投資の次の波は、よりターゲットを絞ったもの、より垂直的なもの、より業界に特化したものになる可能性が高いと考えられます。たとえば、AIの価値が潜在的に非常に大きいフィンテックやプロップテックをはじめとした不動産など、文書化、タスクの多い業界をターゲットにしたソリューションなどがそれに該当します。



Francois Chadwick
Partner
KPMG Private Enterprise
KPMG米国

南北アメリカー2024年第1四半期（1/3）

2024年第1四半期の南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、米国、カナダ、ブラジル、メキシコなど、同地域の主要国で投資が停滞したことから、2023年第4四半期の430億ドル（取引数：3,878件）から380億ドル（取引件数：3,205件）に減少しました。

ヘルスケアとバイオテック分野への注目が継続

2024年第1四半期、南北アメリカでは、ヘルスケアとバイオテック分野へのベンチャーキャピタルによる活発な投資が続きました。米国では、製薬会社によるバイオテックスタートアップの買収費用が妥当な水準で推移しており、魅力的な投資分野となっています。このことは、この分野で起こっている科学的研究の進歩と相まって、多様なヘルスケア分野でのベンチャーキャピタルによる投資の継続につながっています。

南北アメリカ全域でイグジットが停滞するなか、セカンダリー・マーケットは増加

2024年第1四半期は、南北アメリカ全域でイグジット環境は停滞したままでした。米国では、ソーシャルメディア大手のRedditが例外で、ニューヨーク証券取引所でのIPOに成功しました。また、バイオテック分野もIPO市場に明るい兆候を見せましたが、案件の規模は小規模にとどまりました。イグジットの選択肢であるIPOとM&Aが長期的に軟調な状態にあるなか、発行された株式や債券を投資家間で売買するセカンダリー・マーケットは米国で回復してきており、一部のスタートアップはエンジェル投資家などの初期投資家や従業員に流動性を提供するためにセカンダリー・マーケットを活用し始めています。

ラテンアメリカでは、ブラジルの株式市場が2024年第1四半期も好調でしたが、ハイテク企業の新たなイグジットを促すには至っていません。これは、同国のスタートアップの収益パターンに対する投資家の警戒心や懸念を反映していると考えられます。

投資家が投資先を厳選するなか、スタートアップで二極化が進む

ベンチャーキャピタルは2024年第1四半期も南北アメリカでの投資に慎重な姿勢で臨み、好業績と事業規模を適正化する能力を示したスタートアップに投資の多くを集中させました。一方、資金調達や投資家への追加出資の説得が困難な勢いに乗れないスタートアップも増えています。

ベンチャーキャピタルがスタートアップに求めるハードルは確実に上がっています。2024年第2四半期に向けて、優良なスタートアップが資金を獲得し続ける一方で、その他のスタートアップは道半ばで脱落していくことが考えられます。

カナダへのベンチャーキャピタルによる投資は前四半期比で大幅に減少

2024年、カナダのベンチャーキャピタル市場は低調なスタートを切りました。ベンチャーキャピタルによる投資総額は2023年第4四半期の18億ドルから2024年第1四半期には7億6,650万ドルに減少し、2018年第3四半期以来の低水準に落ち込みました。取引件数も前四半期比で214件から148件に大幅に減少しました。さらに、コーポレートベンチャーキャピタルによる案件数は2023年第4四半期の42件から当四半期は35件と微減でしたが、投資総額は13億ドルから2億6,000万ドルへと大幅に減少しました。

南北アメリカー2024年第1四半期 (2/3)

フィンテックがブラジルにおける最大の投資分野でしたが、他分野も台頭

ブラジルでのベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第1四半期も主にフィンテック分野に集中し、法人カード・プラットフォームおよび経費サービス会社のConta Simplesによる4,150万ドルのシリーズBラウンドなど、主に中小規模の案件が中心でした。フィンテック以外では、リテールテック、スマートテック、ヘルステック、エドテックなどの分野が、2024年第1四半期にブラジルで投資された分野でしたが、これらの分野は、フィンテックに比べるとまだ初期段階にあると言えます。また、ブラジルではアグリテックへの関心も高まり始めています。アグリテックでのイノベーションはこれまで、主に業界関係者の内部で発生していましたが、農家を含む業界参加者にバリューチェーン・サービスを提供しようとしているフィンテック分野でも起きつつあります。

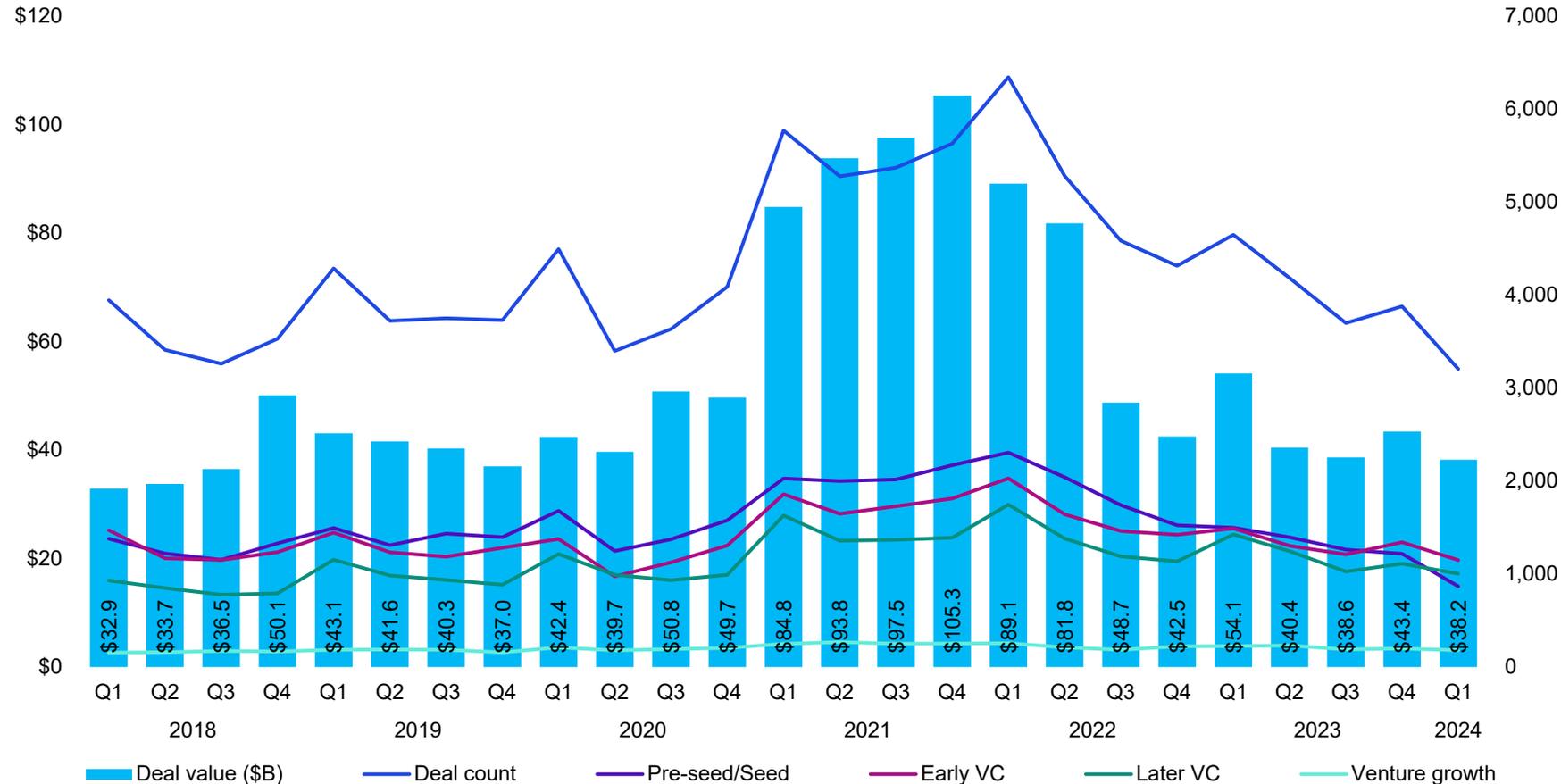
2024年第2四半期に注目すべきトレンド

2024年第2四半期に向けて、イグジットの手段が限定的であることを踏まえ、スタートアップが初期投資家に流動性を提供する方法を模索し続けるため、南北アメリカ大陸ではセカンダリー・マーケットが引き続き堅調に推移すると予想されます。また、Redditの結果を受けて、他の企業がIPOを試みるかどうかにも注目されます。IPOが回復し始めれば、LPからベンチャーキャピタルへの資本投下圧力が高まる可能性があります。

南北アメリカー2024年第1四半期 (3/3)

Venture financing in the Americas

2018-Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.

伝統的なベンチャーキャピタルが投資先をより厳選し、スタートアップの創業者がダウンラウンドを避けるようになるにつれ、ブラジルのスタートアップのなかには、ベンチャーデットやクラウドファンディングのような代替的な資金調達方法を検討するところも出てきています。一方、大企業は自社のイノベーション能力の開発を優先し、スタートアップへの投資は現状維持または削減する企業もあります。



Daniel Malandrin
Partner, Venture Capital & Corporate Ventures
KPMGブラジル

欧州 – 2024年第1四半期 (1/3)

2024年第1四半期の欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資は、スウェーデンのH2 Green Steelによる52億ドルの大型資金調達もあり、2023年第4四半期の151億ドルから179億ドルに増加しました。欧州のベンチャーキャピタルは一部の例外を除き、地政学的環境や高金利を含むマクロ経済的環境を考慮し、引き続き慎重な姿勢を示しました。

取引件数が減少する一方、取引総額は堅調

2024年第1四半期、欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資件数は大幅に減少し、2023年第4四半期の2,419件から1,798件になりました。件数の減少は特にレイターステージ案件で顕著であり、シリーズD+はわずか11件にとどまりました。件数が低調であった一方で、ベンチャーキャピタルが有望なスタートアップに資金を集中させたため、投資総額は堅調でした。当四半期、スウェーデン、オランダ、フランス、ドイツ、英国、スペイン、イスラエル、イタリアなど、8カ国で1億ドル以上の資金調達ラウンドが実施されるなど、地理的多様性は堅調でした。

クリーンテックが欧州で最大の勝者に

世界的にAI分野が最も多くの投資を集めるなか、2024年第1四半期、スウェーデンを拠点とするH2 Green Steel (52億ドル)、Alternative Energy Equipment (1億5,900万ドル)、ドイツを拠点とするSunfire (2億3,300万ドル)、フランスを拠点とするElectra (3億3,400万ドル)、ドイツを拠点とするIneratec (1億2,900万ドル) など、クリーンテック分野が同地域における大型案件の多くを占めました。また、ESG関連も規制による圧力などもあり、ベンチャーキャピタルの注目を継続的に集めています。当四半期、EU加盟国によりコーポレート・サステナビリティ・デューデリジェンス指令案 (CSDDD) が承認されました。同指令が可決されれば、EU域内で事業を行う大企業は、人権や環境保護要件の遵守など、サプライチェーン上のESGに関連する懸念事項についての監査が義務付けられます。

英国では過去5年間で最低水準に

2024年の英国におけるベンチャーキャピタルによる投資はこれまでになく低調なスタートとなり、2024年第1四半期は519件で30億ドルにとどまりました。当四半期の英国での最大案件は、ネット銀行のMonzoによる4億3,100万ドルと創薬企業のApollo Therapeuticsによる2億6,000万ドルでした。当四半期、英国のベンチャーキャピタルの多くが懐疑的な姿勢を示し、事業の健全性を図る経営指標であるユニットエコノミクスが優れているほか、売上総利益率、強固な収益性、成長への明確な道筋を備えているスタートアップに資本を集中させる傾向が強まりました。さまざまな企業が支出に対し厳しくなり、内部効率の改善に取り組んでいることから、B2Bビジネスは特に大きな課題に直面しました。景気の減速は2024年第2四半期に向けてベンチャーキャピタルの関心に影響を与える可能性があります。組込み系ソリューションを持つB2Bスタートアップは、付加技術のみを提供するスタートアップよりも回復力があることが証明される可能性があります。

資金調達の面では、2024年第1四半期に、英国の大手ベンチャーキャピタルファンドが小規模ファンドをポートフォリオとして買収することに関心を示しました。当四半期、Molten Ventures は Forward Partners の買収を 5,200 万ドルで完了しました。英国で最近見られるもう1つの傾向は、海外との取組みに焦点を当てていることです。これは特にフィンテック分野で顕著で、多くの英国のフィンテック企業が中東で台頭しつつあるフィンテックエコシステムへの接触に取り組んでいます。

欧州 – 2024年第1四半期 (2/3)

ドイツではマクロ経済の不透明感が続くなかでベンチャーキャピタルによる投資はやや減少

2024年第1四半期のドイツにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、マクロ経済の不確実性がスタートアップと大企業の双方に影響を及ぼし、2023年第4四半期の19億ドルから18億ドルへと若干減少しました。インフレ率は低下し、金利は安定したものの、エネルギーコストの高騰、国際競争力への懸念や地政学的不確実性の高まり、イグジッド機会の不足などから、ドイツのベンチャーキャピタルの多くは投資を手控えました。

ドイツでは製造業企業を中心に多くの大企業が現在のビジネス環境で苦戦しており、2024年第1四半期の企業による投資は低調でした。また、多くのB2Bスタートアップも、顧客となる企業が支出削減に取り組むなか苦戦しました。今後数四半期は、特にラストワンマイル配送やモビリティ分野のスタートアップで統合や廃業が増える可能性があります。

オーストリアではベンチャーキャピタル市場に明るい兆し

オーストリアのベンチャーキャピタル市場は進化を続け、2024年第1四半期は2023年第4四半期と比較して取引件数、取引規模ともに拡大しました。取引規模の拡大は特にシリーズAのスタートアップにおいて顕著で、当四半期、Silotechは2,000万ドルのシリーズAラウンドでの資金調達を実施しました。オーストリアでもクリーンテックとAI分野のスタートアップが当四半期、投資家の注目が集まりましたが、収益性を示すことができるスタートアップへのベンチャーキャピタルの関心も高まりました。オーストリアのベンチャーキャピタルは依然として慎重な姿勢を示しているものの、投資の水準を含め、ベンチャーキャピタル市場の状況が今後数四半期にわたって改善し、成長し続けることが期待されます。

アイルランドでは取引総額、取引件数が大幅に減少

アイルランドでのベンチャーキャピタルによる投資は、不透明なマクロ経済環境から海外の投資家が大型案件を手控えたため、2024年第1四半期はわずか3,510万ドル（26件）となり、2023年第4四半期の2億700万ドル（133件）と比べ、驚くほど低調なスタートとなりました。しかし、アイルランドのテクノロジー関連企業への関心は当四半期中、引き続き高い水準にありました。

2024年第2四半期に注目すべきトレンド

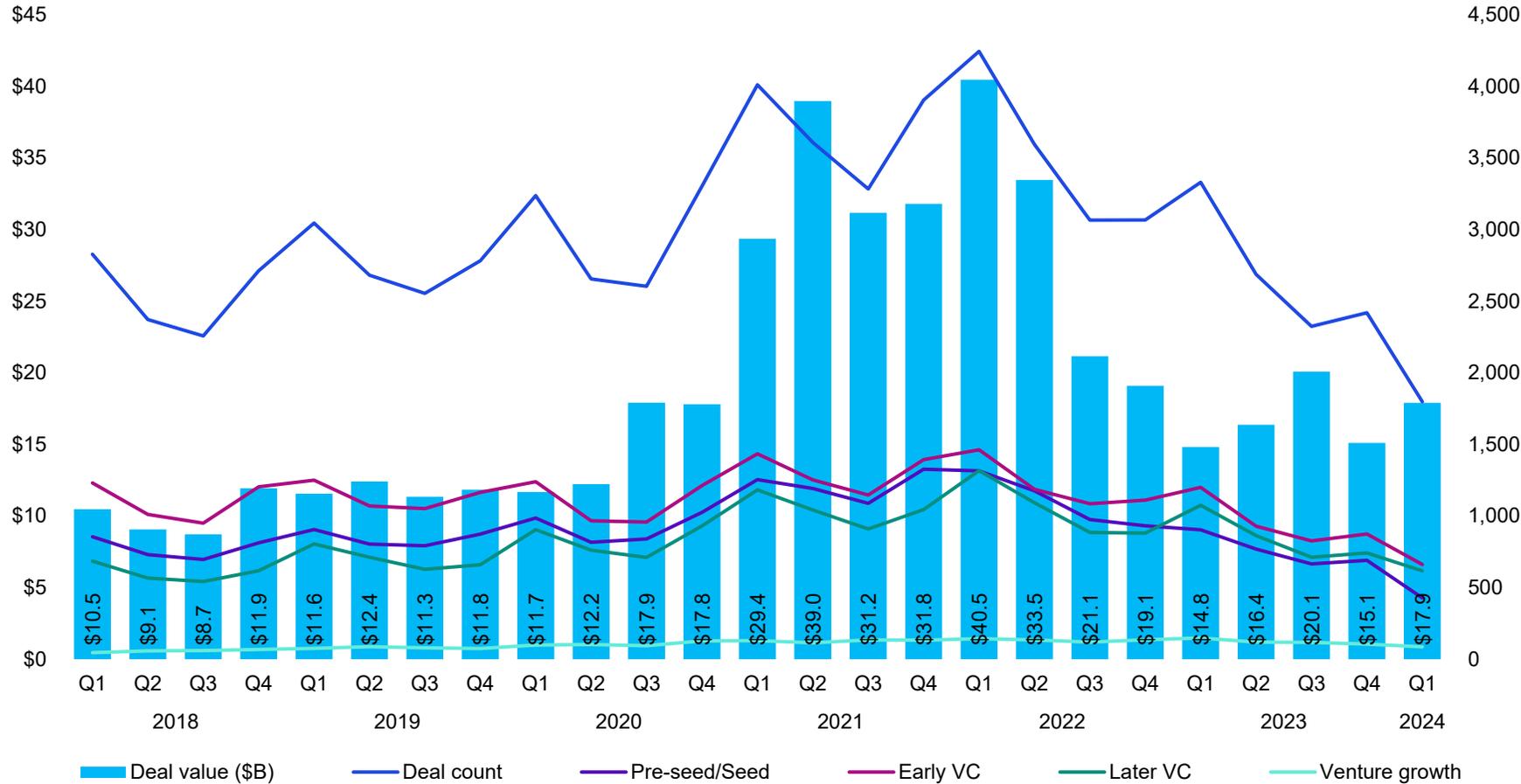
2024年第2四半期に向けて、欧州のベンチャーキャピタルは、米国と欧州の次期選挙に関連した不確実性を含め、現在進行中のマクロ経済的課題と地政学的問題がどのような展開になるかを引き続き見極めるため、慎重な姿勢を維持すると考えられます。クリーンテックとESGレポートに関連したベンチャーキャピタルによる投資は、この分野の規制要件が強化されていることから、引き続き堅調に推移すると予想されます。防衛技術分野もまた、この地域のベンチャーキャピタルの関心が高まり続けると推測されます。暗号資産への関心も回復し始めており、次の四半期には投資が増加する可能性があります。

2024年第2四半期、欧州のベンチャーキャピタルは米国のIPO市場の動向を注視すると考えられます。仮に米国のIPO市場が活発になれば、その影響は欧州のIPOやベンチャーキャピタルによる投資活動に波及する可能性があります。

欧州 – 2024年第1四半期 (3/3)

Venture financing in Europe

2018–Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.



振り返ってみると、2021年から2022年はある意味で異常であったと言えます。特に商品を直接消費者に販売するD2C分野では、多くのスタートアップが成長しようとしていた時期でした。その後、マクロ経済環境が劇的に変化し、借入コストの上昇や政治的な不確実性の高まり、そして重要な選挙を目前に控えています。私たちは新たな時代に、新しい規範を見つけたことを認識する必要があります。今は、ここから前進することです。そして今、ここ英国の投資家は、黒字化への道筋を優先し、持続可能な成長を生み出し、現在の環境で成功する企業に注目しています。



Nicole Lowe
UK Head of Emerging Giants
KPMG英国

アジアー2024年第1四半期（1/4）

アジアにおける2024年第1四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、189億ドル（取引件数：2,305件）で2023年第4四半期の229億ドル（取引件数：2,920件）から取引総額と取引件数はともに減少しました。EV企業のIM Motors（11億ドル）、AIを活用したスマート・チャットボット企業のYueZhiAnMian（10億ドル）、インターネット・通信衛星企業のYuanxin Satellite（9億4,000万ドル）など、中国における3件の大型案件があったにもかかわらず、前期比で減少しました。

アジアの投資家の注目を集めるAI

AI分野は、2024年第1四半期にアジアで高い関心を集めました。Moonshot AIの資金調達に加えて、韓国を拠点とするAI主導の仮想通信サービスプロバイダーのStage Xは3億ドルを調達し、中国を拠点とするAIを活用したESGにフォーカスしたフィンテック企業のMioTechは1億5,000万ドルを調達しました。中国では、半導体チップや半導体製造におけるイノベーションと並行して、AIや機械学習のイノベーションの推進に引き続き関心を示しています。

クリーンテックはアジアでの注目が高まり続ける

クリーンテックと代替エネルギー分野は、2024年第1四半期中にアジア、特に中国で引き続き多くの資金を集めました。中国では、IM Motors（11億ドル）、Huakong Power（6億9,600万ドル）、Guangxi CNGR New Energy（3億700万ドル）の3つのクリーンテック企業が、当四半期のアジア地域で最も大きなディールを成立させました。さらに、中国では、Sungrow NewEnergy、Guangxi CNGR New Energy、Zhizi Auto、Qiyuan Green Powerという、2024年第1四半期の世界の新しいクリーンテックと代替エネルギーに焦点を当てたユニコーンの4つを占めました。

ヘルステックとバイオテック分野でも、インドを拠点とするPharmEasyの4億2,100万ドルと中国を拠点とするJixing Pharmaceuticalsの1億6,200万ドルなど、当四半期は堅調な投資が行われました。

中国へのベンチャーキャピタルによる投資、2024年第1四半期は低調

中国では、2024年第1四半期に複数の大規模なクリーンテック関連のディールがあったにもかかわらず、ベンチャーキャピタルによる投資額は2023年第4四半期の150億ドルから、2020年第1四半期以来の低水準となる115億ドルに減少しました。2024年第1四半期は、中国での旧正月の時期であることや、企業が主要な意思決定を行う前に年末の財務状況を見極めるため低調に推移する傾向があるとはいえ、この数字は際立っています。AIと新エネルギー分野は引き続き中国での投資において最も魅力的な分野であり、これには新エネルギーに関連した新素材製造などのサブセクターも含まれます。

2024年第1四半期の中国での資金調達活動は、USドルベースでは低調に推移した一方、人民元建ての国内ファンドについてはこれまでのペースからは掛け離れていたものの比較的好調でした。一部の多国籍企業が中国にある資産を売却したり、合併パートナーを設立したりするなど、海外からの直接投資は昨年大幅に減少しました。一方、太陽エネルギー分野の企業を中心に中国を拠点とする企業が、欧州を含む他の地域の市場ニーズに応えるため、海外に製造拠点を設置する動きを強めています。また、中国では中東地域、特にサウジアラビアとの二国間戦略投資への関心も高まっています。

アジア – 2024年第1四半期 (2/4)

エコシステムの進化に伴い日本のベンチャーキャピタル市場は健全に

2024年第1四半期の日本のベンチャーキャピタル市場は非常に好調で、前年同四半期と同等に推移しました。消費財などを扱うMOON-X（2,300万ドル）や、バイオテクノロジー企業のPRISM BioLab（1,000万ドル）など、多くの企業が資金調達ラウンドを行いました。また、日本人起業家が設立し米国に拠点を置くOishii Farm Corporationも当四半期、NTTを中心とした取引で1億7,300万ドルを調達しました。2024年第1四半期、台湾のTSMCが日本で最初の工場を開設したほか、日本で急成長するAI関連産業の支援を目的に日本政府がTSMCに対し第二工場の建設に最大48億ドルを約束したことなどもあり、半導体製造分野も注目を集めました。日本のベンチャーキャピタルエコシステムへの関心と成熟度の高まりを背景に、ベンチャーキャピタルとコーポレートベンチャーキャピタルファンドの数は2024年第1四半期も増加を続けました。スタートアップへの投資額を2027年までに大幅に増やす計画の日本政府による支援も引き続き強力です。2024年第1四半期の主要な投資分野は、ヘルスケア、エネルギー、量子コンピューティングといった政府の優先分野に加え、脱炭素化や自動化技術への関心が高まっています。

2024年第2四半期に注目すべきトレンド

2024年第2四半期もアジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は比較的堅調に推移すると予想されます。消費者市場の回復が続くと考えられる一方、そのペースはかなり緩やかであると予想されます。バッテリー技術からEVバリューチェーン・ビジネス、半導体といったESG関連技術に加え、AIも引き続き大型案件を誘致する可能性があります。

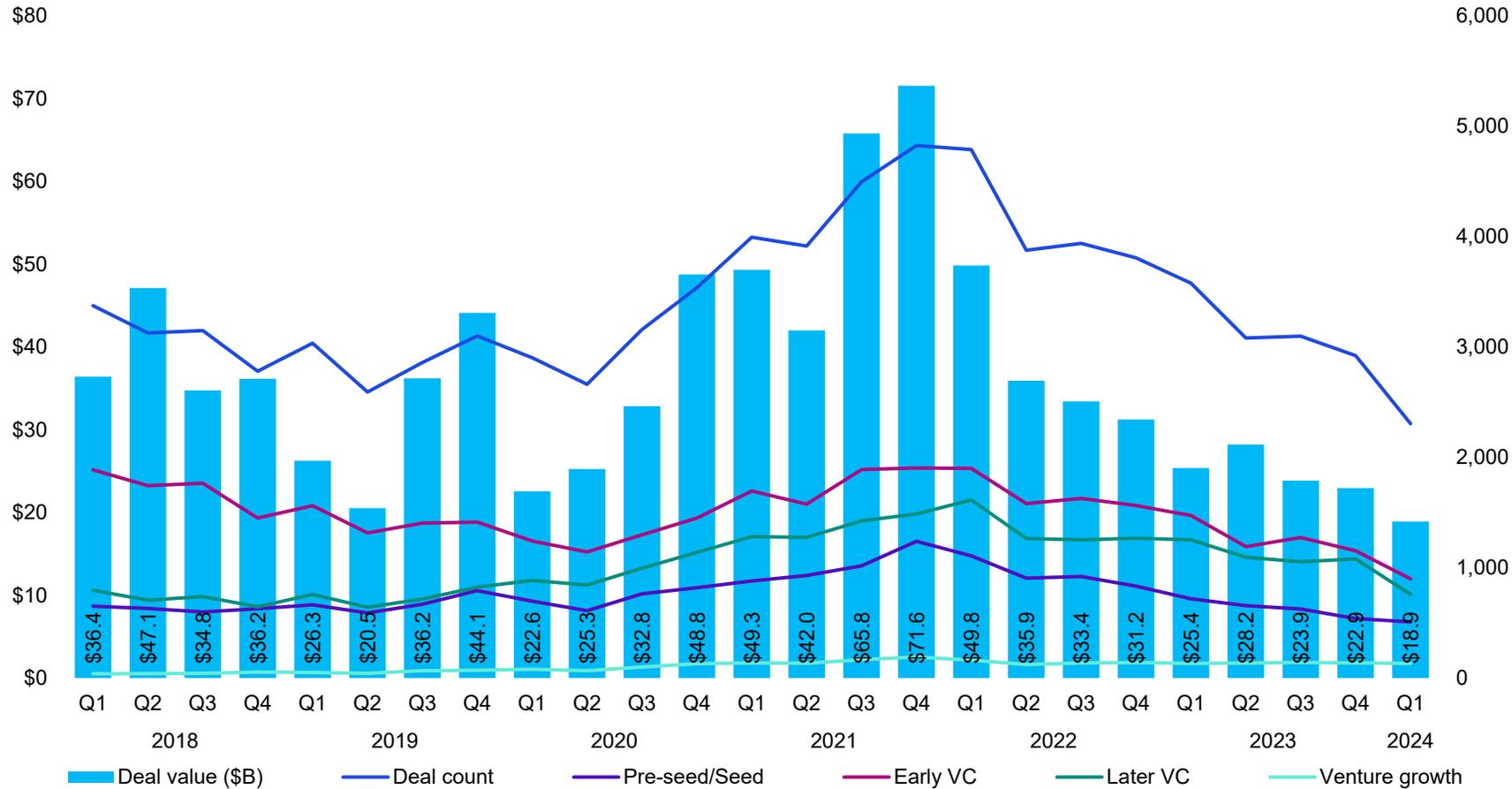
中国では、消費マインドの低下とそれに伴う消費の落ち込みの影響が懸念されます。政府が消費マインドと景気を押し上げるための政策の導入が期待され、こうした政策が2024年第2四半期中に実現されれば、2024年後半に向けてベンチャーキャピタルからの信頼が高まる可能性があります。

日本では、政府が海外のスタートアップ企業の誘致に取り組んでいることなどもあり、ベンチャーキャピタルによる投資やスタートアップ市場の形成は2024年第2四半期も引き続き好調を維持すると考えられます。また、日本におけるM&A市場も、スタートアップがイグジット戦略としてIPOよりもより現実的なM&Aに注目し始めていることから、増加すると予想されます。

アジア – 2024年第1四半期 (3/4)

Venture financing in Asia

2018–Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.



中国では、乗用車市場においてEVが大きく発展しています。中国は非常に大きな産業市場であり、産業輸送に多くのトラックが使用されているため、EVトラックにさらに焦点が当てられるようになるでしょう。そして、この分野を成長させるためには、エネルギー開発や車両に使用する新素材の開発など、まだ多くの課題があります。

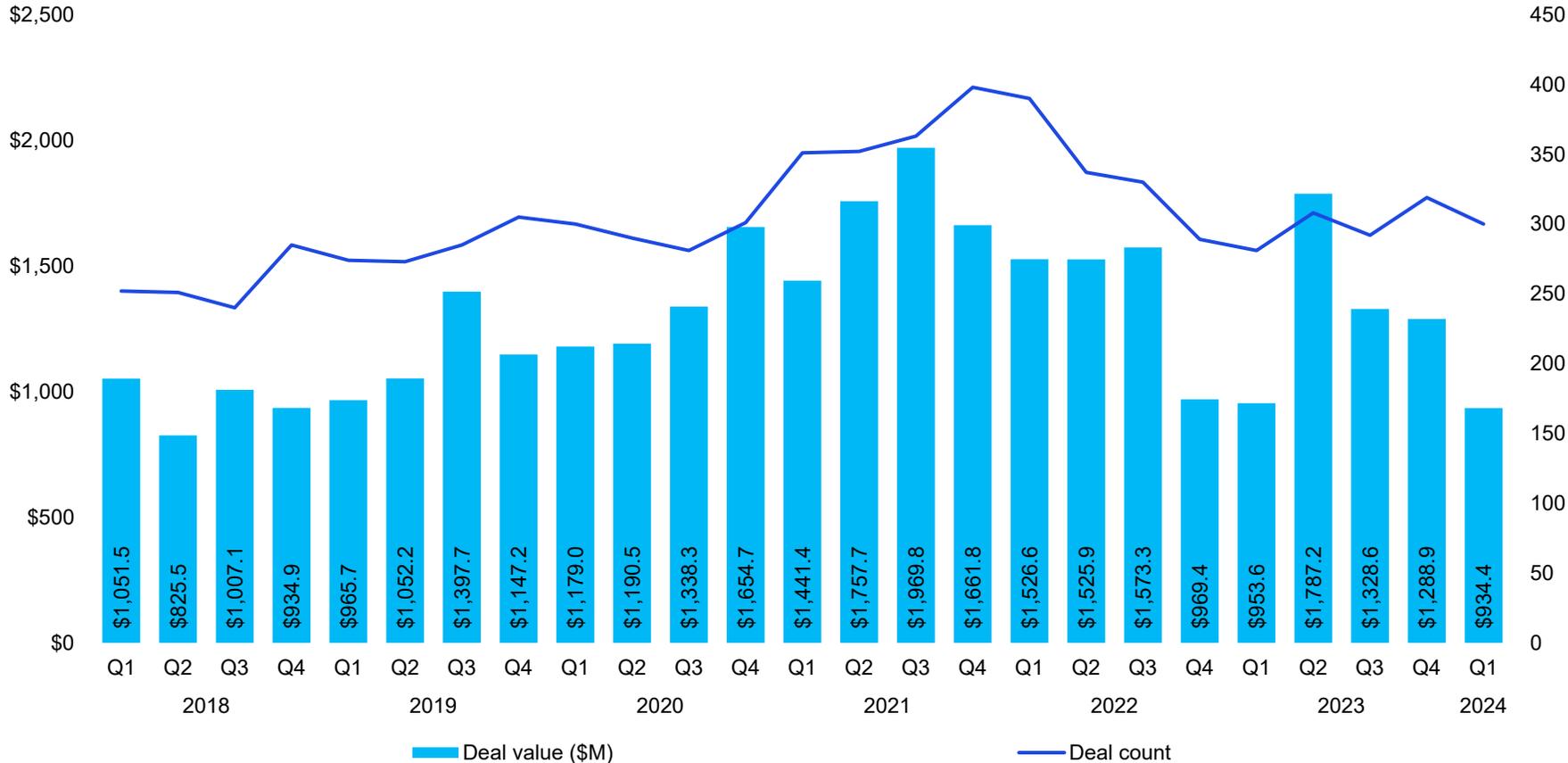


Zoe Shi
Partner
KPMG中国

日本 – 2024年第1四半期 (4/4)

Venture financing in Japan

2018–Q1'24



Source: Venture Pulse, Q1'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2024. Data provided by PitchBook, April 17, 2024.



台湾をはじめとした海外のベンチャーキャピタルや、サムスンなどの外資系企業から注目される日本のスタートアップが増えています。また、海外の投資家からのLP投資も増えており、日本のスタートアップに対する意識と理解の高まりを反映したもので、非常に良い傾向です。



阿部 博
 常務執行理事
 スタートアップ統轄パートナー
 有限責任 あずさ監査法人

本レポートについて

メソドロジー（方法論）

KPMGのプライベートエンタープライズセクターが四半期ごとに発行する「Venture Pulseレポート」は、米国のPitchBookのデータを使用しています。

本レポートでは、中東・南アジア（MESA）地域およびアフリカ地域については分析の基となるデータセットと検証可能な傾向などが不足していることから地域ごとの集計に分類されていません。一方、グローバルの数値にはMESAやアフリカ地域に加え他の地域も含まれるため、本レポートの南北アメリカ、アジア、欧州の各地域の数値を合計してもグローバルの合計とは一致しません。

本レポートでは、特に欧州地域においてBitchBookがプライベートエクイティ（PE）としてトラッキングしているトランザクションについて、レイターステージのベンチャーキャピタル（VC）との混同や特定の資金調達ラウンドに関して混乱が生じる可能性があることから、これらのトランザクションは含んでいません。PitchBookでは、PEGロース投資ラウンドをPE投資家が非公開企業の少数株を取得したときに発生する金融投資と定義しており、投資家がPitchBookによりPE投資家と分類され、かつ出資を受ける企業の唯一の資金調達先である場合はPEGロース投資として分類され、本レポートのデータセットには含まれません。ただし、2022年第4四半期版のVenture Pulseレポートより、レイターステージのVCのグロースを説明するためにPitchBookにより考案されたベンチャーの新しいステージが含まれ、ベンチャーグロースとして定義しています。

また、企業が製造業とインフラを除くPitchBookが定める業種のいずれかにタグ付けされている場合は、その企業は保持されます。それ以外の場合、次の業界はグロースエクイティファイナンスの計算から除外されます：建物と不動産、貯蓄と住宅ローン、不動産投資信託、石油とガスの設備、公共事業、探査、生産、精製。なお、対象となる企業は、対象となるラウンドの前にM&Aや買収、新規公開株（IPO）を完了してはなりません。

資金調達

PitchBookでは、VCファンドをスタートアップ企業の株式への投資を目的として調達された資金のプールと定義しています。PitchBookでは、同様に従来のVCによって調達された資金に加え、スタートアップ企業の株式への投資を主な目的としてあらゆる機関によって調達された資金も含んでいます。グロースステージのピークルとして識別されるファンドはPEファンドとして分類され、本レポートには含まれていません。ファンドの所在地は、ファンドの投資チームが拠点を置く国によって決定されます。その情報が明確ではない場合には、ファンドのジェネラルパートナーの本社所在地が使用されます。資金調達の数字には、最終クローズを行った米国を拠点とするファンドのみが含まれます。ファンドの金額は、ファンドの最終クローズの年にカウントします。中間クローズの金額は、中間クローズの年にカウントされません。

取引

PitchBookでは、外部からのスタートアップ企業への株式投資が含まれます。投資は、必ずしも機関投資家からである必要はなく、個人のエンジェル投資家、エンジェルグループ、シードファンド、ベンチャーキャピタル企業、コーポレートベンチャー企業、企業投資家、機関投資家などからの投資が含まれます。なお、アクセラレータプログラムの一環として受けた投資は含まれませんが、アクセラレータが引き続き後続ラウンドに投資する場合は、それらの追加資金調達は含まれます。すべての資金調達は米国に本社を置き、かつ合同統計地域（CSA）のエコシステムを形成する企業です。PitchBookでは、部分的な負債と株式を含む取引を含んでいます。

- プレシード/シード:** プレシードステージには、少なくとも1つの機関投資家から最初の小切手を受け取り、開発の成長を促進する新興スタートアップが含まれます。グローバルスタートアップの場合、機関投資家の以前の取引参加に応じてエンジェルディールを再分類しています。会社の投資家ベースが個人投資家のみで構成されているために「エンジェル」としてタグ付けされた取引は、ステージ方法論に基づいて、アーリーステージまたはレイターステージのVC取引カテゴリーに再分類されます。2023年第4四半期のVenture Pulseレポート以降、米国と欧州に本社を置くスタートアップの場合、プレシードは設立から2年未満、かつ機関投資家からの支援を受けていないスタートアップの資金調達ラウンドと定義しています。
- アーリーステージ:** アーリーステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズAまたはB（通常はアーリーステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。
- レイターステージ:** レイターステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズCまたはD以降（通常はレイターステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。
- グロース:** シリーズE以降としてタグ付けされた資金調達、または設立から7年以上経過し少なくとも6回のVCラウンドを調達したスタートアップが関与する取引を、2023年1月に刊行された2022年第4四半期版Venture Pulseレポートよりこのカテゴリーに含みます。
- コーポレート:** 現在VCの支援を受けているスタートアップ企業で、PitchBookの他のベンチャーファイナンスの基準を満たす企業による資金調達ラウンドを、2018年3月よりVenture Pulseレポートに含んでいます。
- コーポレートベンチャーキャピタル:** コーポレートベンチャーキャピタル（CVC）として分類される資金調達には、既存のCVC部門を通じて投資する企業と、バランスシート外の株式投資を行う企業、またはその他の非CVC手法が採用されているラウンドが含まれます。

イグジット

PitchBookでは、株式の公開（IPO）や他のエンティティによる株式の過半数取得（企業または金融買収）など、VCの支援を受けて企業の株式保有者にとって最初の過半数流動性イベントが含まれています。一方、二次売却、最初の流動性イベント後のさらなる売却、または破産は含まれません。M&Aの価値は、報告または開示された数値に基づいており、実際の取引規模が不明な取引の価値を評価するために推定値は使用していません。IPOの価値は、IPO価格での企業のブレマナー評価に基づいています。方法論において、VCの支援を受けた企業の公開市場への移行を追跡するさまざまな方法に対応するために、カテゴリーを「IPO」から「公開市場」に変更しています。公開する企業の全体像を把握するために、方法論の変更により更新されたグループには、IPO、直接上場、および特別買収目的会社（SPAC）による逆合併が含まれます。

2019年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、PitchBookのイグジット総額に関する方法論を、IPOの規模をイグジット総額として利用するのではなく、発行済み普通株式に戻りIPOの事前評価の利用に変更されました。この変更により、イグジット総額が大幅に変更されましたが、業界が公開市場を通じたイグジットの実際の規模をどのように見ているかが反映されるようになってきました。また、2021年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、IPOイグジットタイプが更新され、SPACやその他の逆合併を含むすべてのタイプの上場が含まれます。



大谷 誠
プライベートエンタープライズセクター
統轄パートナー
KPMGコンサルティング株式会社
パートナー
makoto.otani@jp.kpmg.com

阿部 博
プライベートエンタープライズセクター
スタートアップ統轄リーダー
有限責任 あずさ監査法人
パートナー
hiroshi.abe@jp.kpmg.com

古口 長一郎
有限責任 あずさ監査法人
マネジャー
choichiro.koguchi@jp.kpmg.com

KPMGジャパン セクター統轄室
Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター
kpmg.com/jp/private_enterprise

英語オリジナル

Venture Pulse Q1 2024 : Global analysis of venture funding



本冊子は、KPMGインターナショナルが2024年4月に発行した「Venture Pulse Q1 2024: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2024 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International2entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited(「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://kpmg.com/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2024 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 24-1037

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.